

Q1.

秋サケとサーモンは同じなの?

サケ(鮭)を英語で言うとサーモン(Salmon)で、サケとサーモンは言葉の意味では同じです。でも、サーモンの名前で売られている魚のほとんどはノルウェーやチリ、カナダなどの国で養殖されたアトランティックサーモン(大西洋鮭)のこと、秋サケとは違う種類のサケです。



Q3.

秋サケは

安全・安心な魚と聞くけど、 養殖のサケとどう違うの?

秋サケは大海原を自由に泳ぎ回り、自然のエサをたっぷり食べて成長し、健康で元気なものだけが生残ってもどって来ます。これが、安全・安心と言われる理由です。



Q5.

サケとマスはどう違うの?

秋サケ(シロザケ)はサケ属のなかまで、他にカラフトマス、サクラマス、ベニザケ、ギンザケ、マスノスケ、ニジマスも同じになります。生物学的にはサケとマスにははっきりした区分はなく体の形や生活のしかたのちがいなどで区分されているわけではありません。



Q6.

どうして秋サケの人工ふ化放流をするの?

秋サケは4000年前の縄文人の時代から大切な食料でした。しかし長い歴史の中で、生活のしやすさや産業発展など人の都合だけで、山林を切りひらいたり、川にダムをつくりたり、いろいろな生物が好んですむ曲がりくねった川をまっすぐに変えてコンクリートの多い水路に工事したりして、秋サケが産卵して子孫を残すことのできる自然環境の多くが失われました。そこで、私たち(さけ・ます増殖団体)は秋サケが産卵して受精し生まれた稚魚が海に出るまでの間を手助け(人工ふ化放流)をして、昔のように秋サケがたくさんもどって来て、自然も人も健康になるよう努力しています。現在、北海道には公営10、民間98の計108のふ化場があり、健康な稚魚を育てて214カ所の川などで放流しています。



Q7.

秋サケはどうして生まれた川にもどれるの?

北太平洋では、太陽の位置や高さ、地球の磁気などを利用して生まれた川のある海域までどってくると考えられていますが、まだ正確な答えはわかつていません。生まれた川の近くにもどってきた後は、川の特有の匂いをかぎ分けて、生まれた川を上り(遡上します)。ふ化場で生まれた秋サケは、ふ化場の水の匂いをおぼえていて、育った池(飼育池)にまで正確にもどります。(なかには、迷子になるサケもいるようですが)



Q2.

秋サケと養殖のサケはどう違うの?

養殖のサケは、海に設置した生け簀(囲い網)にたくさんの魚を入れ、人工的なエサをあたえて育てます。魚肉の色も、脂の量もエサで人工的に調節しています。秋サケは、私たち(さけ・ます増殖団体)が卵から稚魚までの間だけ成長を手助けして放流します。放流した秋サケは、3~5年の間北太平洋の大平原を自由に泳ぎ回って自然のエサをたっぷり食べて成長してもどります。



Q4.

秋サケは赤身の魚なの?

店で売られている秋サケの切身を見ると赤いので、赤身の魚と思ってしまう人もいますが、実は白身の魚です。サケの身の色が赤いのは、自然のエサとして食べているオキアミ類やエビ類などに含まれるアスタキサンチンという栄養素によるもので、卵(イクラ)の赤い色も同じです。秋サケが成熟して産卵のため川に上る(遡上する)ころになると、エサを食べなくなる、身の栄養素が卵に移るため身の色がだいに白くなります。このことからも、白身の魚だということがわかります。



Q8.

秋サケの稚魚を学校や自宅で か 飼うことはできるの?

飼いたい希望があれば、私たち(さけ・ます増殖団体)に連絡してください。学校からの申し込みでしたら、飼育するための器具(水槽やエアポンプ)を用意していただき、少量ですが卵か稚魚をお譲りして育てて放流していただくことができます(ただし、放流できる川は北海道庁が指定した川だけです)。個人の家庭からは直接の申し込みを受け付けていませんが、学校や社会教育団体などを通じてご相談いただくことはできます。詳しくは、当協会ホームページの「種卵等の供与に関する取り扱い」のページを見てください。

<http://sake-masu.or.jp/html/09-01.html>

